

令和 6 年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立長橋小学校

2025（令和7）年3月

(様式2)

大阪市立長橋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 2023年度 7/172 4% 2024年度 9/156 5.7% 前年度比 1.7%増 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 2023年度 2/7 改善 28.5% 2024年度 1/4 改善 25.0% <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にするるとともに、「自分にはよいところがない」と回答する児童の割合を15%以下にする。 肯定的 84% 最も否定的 7% 校内調査における「将来の夢や目標がありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 肯定的 83% 年度末の校内調査の「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 肯定的 94% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全、安心な教育環境の実現】</p> <p>定例ケース会議(スクリーニング会議)など、各種部会において児童の様子との交流を日常的に行う。いじめアンケートを通していじめの早期発見に努め、掌握したいじめについては、学校で組織的に対応し、原因を明らかにするとともに、いじめ解決を図ることができるようにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 定例ケース会議(スクリーニング会議)など児童理解の会議を月1回実施する。 月1回実施年間11回 いじめアンケートを学期に1回実施する。 1学期6月 2学期11月 3学期2月 校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 最も肯定 92% 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全、安心な教育環境の実現】</p> <p>登校しづらい児童に対して、家庭訪問を行い登校の支援をする。また、児童の実態に応じてオンラインを活用するなど柔軟に対応し、学習への参加を促す。児童や保護者に必要な支援を掌握するため、区役所や関係諸機関などと連携を図り、不登校児童の在籍割合を減少させる。</p>	C

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 2023 年度 7/172 4% 2024 年度 9/156 5.7% 前年度比 1.7%増 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 2023 年度 2/7 改善 28.5% 2024 年度 2024 年度 1/4 改善 25.0% 	
<p>取組内容③【基本的な方向 1、安全、安心な教育環境の実現】</p> <p>命の教育として防災・減災教育に取り組む。地震、火災などの自然災害を想定した避難訓練を実施し、命を守る行動をとることができるようにする。また、地域や区役所と連携することを通して、学校や地域に目を向け、自分たちの町や人のために行動できる心を養い、協力することの大切さに気づくことができるようにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査の「あなたは命を守る行動をとることができますか」の肯定的な回答の割合を 85%以上にする。 100% ・校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。 1 学期 96% 2 学期 97% 3 学期 97% 	A
<p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>生活目標、長小 3 つのパワーなどを児童に提示し指導を進めることで、児童自らが行動をよりよいものにしようとする意欲を高める。教職員が児童の認められる場面や児童が互いに認め合える場面を効果的に取り入れ、自分のよさや可能性を感じられるようにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活目標の周知・掲示を月 1 回行う。 児童朝会で生活目標の周知。毎月掲示 ・校内調査の「学校の決まりを守っていますか」で肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。 90% ・校内調査の「自分にはよいところがありますか」の肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にするとともに、「自分にはよいところがない」と回答する児童の割合を 15%以下にする。 よいところがある 84% ない 7% 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>韓国・朝鮮につながりをもつ児童をはじめ、フィリピン、中国などの国や地域につながりのある児童が在籍している。遊びや歴史にふれる機会を通して、それぞれの国や民族の文化を理解し、民族のアイデンティティーを育てるとともに、国際社会を生きる素地となる力を育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会、報告会を実施する。 民族発表会 フィ多報告会 実施 ・学習や活動の様子を伝える新聞などの学期に 1 回以上発行する。 民族だより 1 2 号発行 ・校内調査「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会が多くあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。 94% 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目では、最も肯定的な「思う」に関する数値は 92%と指標を上回っている。定期的なスクリーニング会議やいじめアンケートをもとにいじめの早期発見に努め、チームを組織し、対応している。また、日々の学校生活の中で、教職員は人を傷つける言葉や行動、いじめにつながる発言等は即時に指導を行い、いじめを許さない姿勢を示すことができている。</p> <p>②昨年度の不登校児童は7名で、今年度は9名で、人数、在籍比率ともに昨年度よりも微増している。また、長欠児童数は昨年度より減少したが、昨年度から今年度にかけての改善の割合を比較すると今年度の改善の割合は減少しており、目標達成には至っていない。</p> <p>③ちびっこ防災プロジェクトでは、毎月防災・減災教育に取り組むことができ、防災意識を高めることができた。学期ごとの避難訓練や区役所と実施した防災学習など、活動を通して、学級内で防災について話すこともあり、意識の向上につながった。校内調査「あなたは命を守る行動をとることができますか」「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目では数値を大きく上回った。今後も防災教育を進めていく。</p> <p>④校内調査「学校の決まりを守っていますか」については 90%と数値が上回り、目標を達成することができた。「自分にはよいところがありますか」に関する項目では、肯定的に回答する児童が 84%、否定的に回答する児童が 7%と目標を達成することができた。</p> <p>⑤校内調査「いろいろな国や地域の文化や伝統などにふれる機会」で肯定的な回答が 94%と数値が上回り、目標を達成している。民族学級・フィリピン学級・多文化共生学級では、いろいろな国や地域の文化にふれる機会が多くある。発表会や報告会を通して、民族学級・フィリピン学級・多文化共生学級の仲間の取組を知ることができている。新聞も随時発行することで民族学級の活動を発信している。</p>
次年度への改善点
<p>①いじめについてのアンケートで否定的な意見をもつ児童に対しての手立てが必要である。「いじめは絶対にだめである」という認識を児童が考えられるように日々教育活動を今後も丁寧に進めていく必要がある。</p> <p>②不登校児童への対策だけでなく、不登校になる前の遅刻や欠席者を減らすための取組が重要である。例えば、教職員の言葉がけの工夫や授業の改善を図るなど、児童が安心して学校に登校できるような取組みを学校全体で講じる必要がある。また、関連機関との連携をより一層していく必要がある。</p> <p>④きまりを全学年で共通理解しながら進めているが、金銭に関するトラブルや校区外でのトラブルがあった。ルールの確認、ルールを守れている児童へのポジティブなフィードバックが大切である。</p> <p>「自分にはよいところがない」と回答する児童の引き上げのために、PBS の取組をもとに、よいところを児童に伝えていったり、達成感、やる気を高められる手立てをしたりすることが必要である。</p>

大阪市立長橋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。 全体 37% ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。 全体 71.2% <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における各教科の標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 各学年、各教科、前年度より向上できず 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業の中で、学級の友だちと話し合う活動を取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりする時間をつくる。話し合いを通じて自分の考えを深めたり広げたりしたことをノートにまとめ、自分の成長を実感できるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の友だちと話し合う活動を、毎日1回以上取り入れる。 毎日1回以上取り入れている ・校内調査「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目で、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 46.3% 	B
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各学年の学年児童全体の学習の実態を把握し、基礎・基本的な学習の定着を図る。TT体制を活かして、習熟度別少人数授業を取り入れるなどして、児童一人ひとりに応じた指導や支援、補充学習を実践する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数チャレンジやMIM、コグトレなど基礎・基本を伸ばす学習を定期的に行う。 各学年取り組んでいる ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より向上させる。 各学年、国語、算数、前年度より向上できず 	B
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童の自然の事象・現象についての理解の向上を進める。児童が理科の見方・考え方を働かせ、主体的・協働的な学習ができるように、ICTを活用した実験・観察</p>	C

<p>に取り組ませるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察の記録に ICT 機器を活用した活動を学期に 1 回以上行う。 学期に 1 回以上取り組んでいる ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 65.7% 	
<p>取組内容④【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>低学年からの英語教育を推進し、児童の英語力を向上させる。ネイティブ・スピーカーの講師との交流を通して、生きた英語を学び、外国語に対する学習意欲を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年から英語教育を実施する。 低学年から実施できている ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 64.8% 	C
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>児童の体力・運動能力の向上に向けて、授業や休み時間に児童が運動意欲を高められる活動を実施する。さらに、各学期に、児童の体力向上に向けて体力向上週間（かけ足・なわとびなど）を設定し、がんばりカードを活用することで、目標を持って取り組ませるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査で「運動（体を動かす遊びも）やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 75%以上にする。 69% ・体力的な取り組み後の校内調査の、体力づくりや運動に親しむ項目で、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。 びよんびよんタイム後 93% ランランタイム後 88% 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①各学年で工夫された話し合い活動を日々取り入れることができた。主に、ペアやグループとなり意見を伝えたり、聞いたりする機会を増やし、話すことに慣れさせるようにしてきた。また、グループを決める際は、児童の実態に合わせた班構成にすることで、活発に話し合いが進められるようにした。その結果、小学校学力経年調査では、どの学年も「聞く・話す」の領域において、市平均との指数は上がっている。校内調査「学級の友だちと話し合う活動を取り入れ、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目で、最も肯定的に答える児童の割合は中間で 46%、最終で 46.3%になり目標数値を上回ることができた。</p> <p>②学級によって取り組む内容を児童の実態に合わせて「わくわくタイム」の取り組みを意識してできた。読書タイムを設けている学年や漢字に特化した問題を繰り返し行ったり、学習者用端末によるスタディーサプリの活用などもしている。算数チャレンジは、各学年が定期的に行い、実態把握に活用することができた。小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において、正答率の向上に至らなかった。</p> <p>③実験・観察の記録に ICT 機器（主にカメラ機能）を活用することができた。ほかにも、NHK for school のデジタル教材を取り入れてより発展的な実験動画をみせることで興味関心をもてるようにした。毎時間使う学級や単元に応じて活用する学級もあり、使う頻度が多くなってきている。しかし、小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きで</p>	

<p>すか」に対して肯定的に回答する児童の割合が目標値に至らなかった。</p> <p>④低学年から英語教育を進めることができた。また、ネイティブスピーカーの講師による英語教育も実施できた。3 学期からはドリームタイムの案内放送の導入も行ったことで、児童や教員への意識づけにつなげることができた。</p> <p>⑤休み時間のみんな遊びの設定や教職員の遊びの参加もあり、運動を楽しんでいる。しかし、校内調査で「運動（体を動かす遊びも）やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が 69%と目標に至らなかった。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>①話合いの手立てや、話し合いの目標設定を教員が考えて継続的に続けていくことが必要。ICT 機器を活用し、意見の共有をスムーズに行える話合いも進めていきたい。</p> <p>②わくわくタイムの設定を曜日ごとに決めておくことや、MIM やコグトレなどの活用方法の工夫など、習慣づけて行えるようにしていく。</p> <p>③ICT 機器を取り入れた実験・観察の頻度は増えてきているが、ICT 機器のツールを効果的に生かして、学びを深めたり、考えを広めたりする工夫が必要である。また、児童が端末操作に慣れることによっても ICT 機器の活用幅が広がるため、タイピングや Web の扱いにも力を入れていく必要がある。</p> <p>④ネイティブスピーカーの講師による英語教育を今後とも継続していく。3 学期から取り進めた、ドリームタイムの放送も継続するとともに、掲示物などを活用しながら英語に触れる機会を増やしていく。また、低学年からの英語教育を指標に入れているのであれば、調査対象を全学年に広げたほうがよい。</p> <p>⑤体育時にルール、マナー、勝敗を意識した授業展開を構築し、楽しく体を動かせるような活動を増やす。</p>

大阪市立長橋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、教育委員会事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く) <p>学習者用端末活用率</p> <p>4月 30.4% 5月 36.8% 6月 46.6% 7月 40% 8月 31.4% 9月 51.2%</p> <p>10月 65.3% 11月 70.2% 12月 68.9% 1月 67.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を80%以上にする。 約 95% <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間については1日以上設定する。 夏季 5日 冬季 2日 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX】</p> <p>日々の授業の中で、一人一台学習者用端末とデジタル教材を効果的に活用し、学習効果の向上を図る。また、教員がICT等を活用した視覚聴覚支援の工夫について追求する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査「授業でICT機器を週1回以上活用する」の項目について、肯定的に答える教員の割合を90%以上にする。 100% 	A
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>夏季休業中等の学校閉庁日の設定や、個々の時間外勤務の減少など、教職員が働き方について意識ができるような組織づくりをする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ノー残業デーを月3日以上設定する。 全ての月で実施できた 学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間については1日以上設定する。 夏季休業期間中 5日設定、冬季休業期間は 2日設定 	A
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>夢ひろば（学校図書館）の読書環境を充実させ、児童が自ら読書に親しむことをめざす。また、地域のボランティアの方や図書館司書の方による読み聞かせを定期的に実施して、児童が本の世界の面白さを感じ、進んで本を読めるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査「読み聞かせが楽しい」と肯定的に答える児童の割合を80%以上に 	B

<p>する。78%</p> <p>・校内調査「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。75%</p> <p>・区の図書館との連携により読書活動の環境づくりを推進する。学期ごとに借りて教室にて活用している</p> <p>・学級や夢ひろば（学校図書館）で、読み聞かせを定期的を実施する。図書の時間や15分休みに実施</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向9・家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <p>学校や地域を拠点とした学習機会の充実、登下校時の見守り活動、読書活動支援、など、地域による学校支援の取組を推進する。また、学校・地域・家庭が連携し、学習会を開催し、学校・地域・保護者の人権意識や教育力を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・地域と連携して、年10回以上学習会を実施する。部落人権問題学習会全11回実施</p> <p>・校内調査「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を85%以上にする。100%</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①教員のICT機器活用率は100%で、毎日使用できている。ICT機器のツールとしては、SKY MENUやGoogle classなどが多く、教員によって使うツールが様々である。ICT研修会を学期に1回行い、教員のICT機器を扱うスキルの向上につなげた。児童たちも扱いに慣れてきており、デジタルドリルやスタディーサプリを自主的にする姿も見られた。</p> <p>②ノー残業デーの設定を月3回以上実施できた。ノー残業デーの設定により、働き方について、業務を速やかに切り上げる意識が高まった。また「個々の時間外勤務」については減少している。</p> <p>③各学年、読み聞かせをする時間を毎週1時間実施することができた。さらに、図書ボランティアの方による読み聞かせも、月に2回程度行うことができた。しかし、校内調査による結果をみると、目標値に少しとどかなかった。区の図書館との連携により本を身近に感じることができたり、学年によっては読書タイムの時間を設けていたり、読書が好きと肯定的に回答した割合は、目標値を大きく上回ることができた。</p> <p>④教職員の地域と連携した学習会は10回以上実施できた。学習会では長橋の地域のことを理解できる機会を設けることができた。また、家庭・地域との連携を密にとることができた。とくに日々の教育活動の中で、家庭訪問や電話連絡を通して、家庭と密に連絡し、児童理解や保護者理解に努めることができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>①教員のICT機器の活用率は100%と維持できているので、今後も活用していく。それにあたって、活用方法を工夫しながら授業展開を考えていくようにする。近年、SNSでのトラブルが増加していることを踏まえ、情報モラル学習をさらに進める必要がある。</p> <p>②ノー残業デーの設定によって教職員の意識が高まり、業務の効率化ができた。今後はさらに、業務内容、会議や部会などのあり方などについて精選・見直しをしていく必要がある。</p> <p>③来年度の体制から図書館司書の配置がなくなるため、読み聞かせの機会が減ってしまう。その代案をとって、学級の実態によって、読み聞かせの機会を増やしていく。</p>	

引き続き、区の図書館と連携し、児童が本に触れる機会や環境を整える必要がある。

- ④学習会に関しては、保護者も一緒に学べるテーマで人権意識を向上できる学習会も検討していく。家庭・地域の方との連携を深め、学校が大切にしている子どもとの関わり方を理解してもらいながら協力体制を構築し教育活動を推進していく。とくに地域や関係機関と連携を図り、学校ではできない家庭支援を充実させていく必要がある。